

## 第5章 文化財の保存・活用に関する目標（将来像）

### 1 文化財の保存・活用に関する将来像

本市は海・山・川があり多様な自然があります。しかし、地形上、稲作には不向きな土地であるため、人々の営みの中には、様々な努力をうかがうことができます。また、古くから北九州と南九州の文化が混ざりあい、交流の道が通じるまちでした。交通に関わる文化財や、境を接する薩摩との関わりが色濃く反映した城郭や薩摩部屋などの文化財が生まれました。交流の拠点に根差した徳富家は、学問を重んじ水俣での教育の普及に努め、のちに徳富蘇峰・蘆花を出しました。

このような本市の歴史文化と各地に残る文化財は、市の大切な資源です。本計画は、文化財を取り巻く課題などを踏まえ、市民および地域、行政などの多様な主体のもと、本市における文化財の保存・活用を総合的、計画的に推進していくための指針かつ行動計画です。

本計画の上位計画である第6次水俣市総合計画における関連部分では、施策6に掲げる「文化の振興」があり、「水俣が生んだ偉人の生き方や言葉、郷土の歴史が息づいた文化財を通じた学びによって、市民の郷土に対する愛着と誇りの醸成に努めます」と記載しています。

また、「水俣市教育大綱」では、基本理念として「郷土の<sup>あす</sup>明日をつくる、心豊かな人づくり」があります。「水俣市観光振興計画」では、「水俣の魅力地域が誇り、高めあい、発信して、水俣に出かけたくなる人を何度も呼び込む観光を目指し、そのために「改めてこの地域資源を魅力ある観光資源へと磨き上げることが必要」としています。

以上の点を考慮し、本計画が目指す将来像を、次のように設定します。

#### みなまた集うまち 自然・歴史・文化を活かしたまちづくり

また、この将来像のイメージは以下のとおりです。

本市の豊かな自然と、それが育んだ悠久の歴史文化の価値や魅力を市民の誰もが共有しています。

それによって、市民の郷土への愛着や誇りが育まれ心を豊かにするとともに、多くの人が思いを一つにして、様々な立場から歴史文化と文化財の継承に関わっています。文化財は観光資源としても磨き上げられ、市外の人に地域の魅力を発信しています。多くの人が集い活気にあふれています。

### 2 将来像を実現するための方向性

前項で定めた将来像を実現するため、文化財の保存・活用に関する取組の方向性として、「学ぶ・知る」、「守る・伝える」、「活かす・誇る」の3つを掲げます。

これらの方向性は、単独で機能するわけではなく、相互に関連しています。文化財の調査研究を行うことにより、それを保存するための手立てができます。また、文化財を活用する取組により、歴史文化に興味のある人が増え、文化財施策への理解が生まれ、文化財に関する新たな調査研究や保存が可能になるという好循環が生まれます。また、観光分野とも連携することで、より多くの人に文化財を知ってもらうことができ、地域活性化につながります。

### 方向性1 学ぶ・知る

本市の豊かな自然と、それらが生んだ悠久の歴史文化の価値や魅力を調査研究し、保存・活用の基礎としていきます。また、その調査研究を可能にしていくための体制づくりを進めます。

### 方向性2 守る・伝える

文化財の適切な保存に取り組むとともに、その保存に多くの人が思いを一つにして、様々な立場から関わりをもつ仕組みを作ります。また、近年多発している災害など、危機に備えた対策を行います。

### 方向性3 活かす・誇る

文化財に関する学びや知る機会を様々な手段で充実させることで、郷土への愛着や誇りを育み、文化財の次世代への継承を図ります。また、様々な面での活用により文化財の魅力を向上し、地域の活性化を図ることで、皆がまた集う活気あふれたまちをつくります。

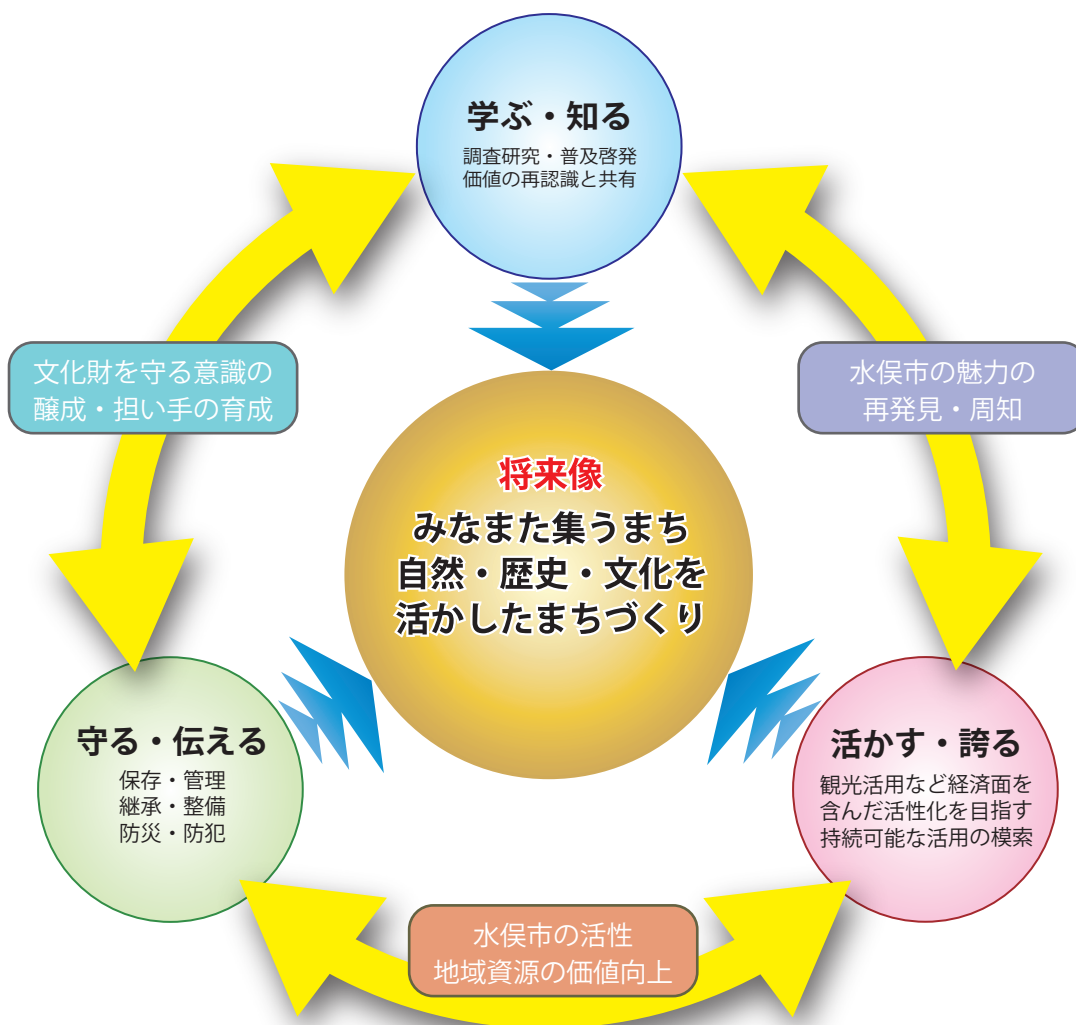


図 21 将来像とそれを実現するための取組の方向性

### 3 計画期間内の目標

今回の計画期間（令和 7<2025> 年度から令和 16<2034> 年度）の目標を、以下のとおり設定し、次の計画期間に発展させていきます。

#### （1）文化財の保存・活用の土台をつくる

本市では、文化財の保存・活用に多くの課題を抱えています。保存のために対応が急がれる課題に対応しつつ、文化財の保存・活用に必要な基礎的な取組を行うこと、また、観光など他の分野との連携を図り、今後進めていく文化財保存活用の推進に必要な土台を作っていくことを目標とします。

#### （2）水俣市の歴史文化をみんなで知る

本市では、歴史文化が市民に知られていないという現状があります。文化財の保存・活用には、歴史文化を知り、誇りをもってもらうこと、そして、文化財の保存・活用の取組を理解し、自ら参加していただくことが必要です。様々な取組や、関連文化財群のストーリーを活かして、本市の歴史文化をみんなが知ることを目標とします。

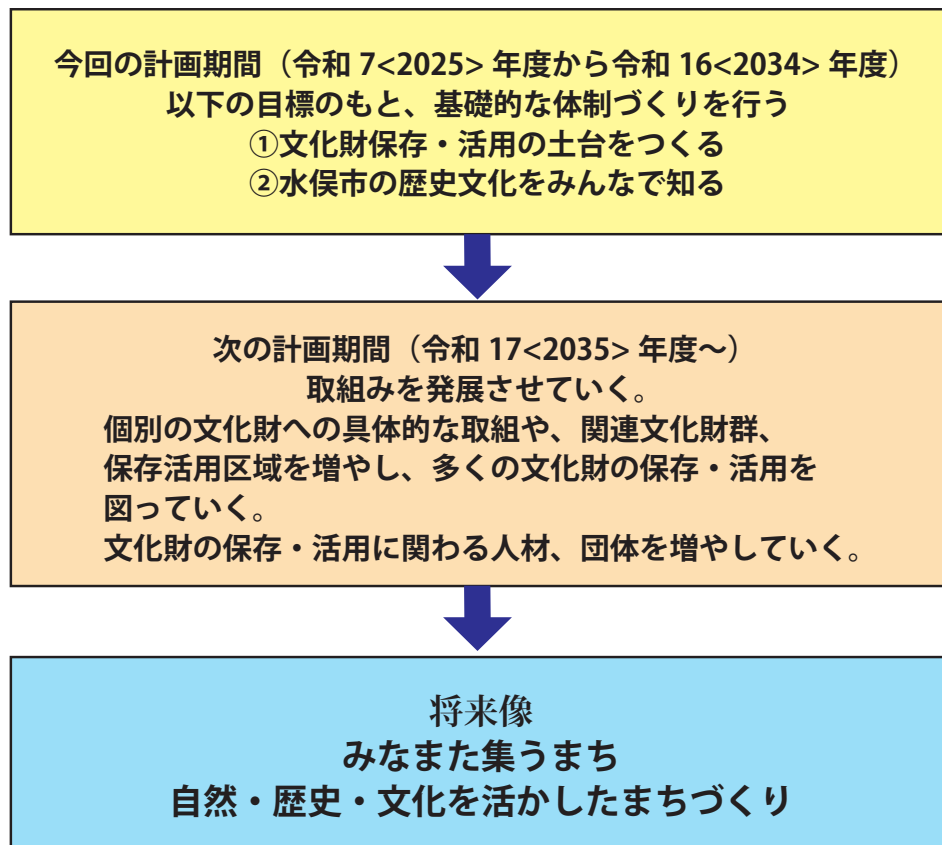


図 22 将来像の実現に向かうプロセス

